

日本地学教育学会 2019 年度第 5 回常務委員会議事録

日 時：2020 年 5 月 15 日（金）18:00～20:00

会議形式：Cisco Webex Meetings による web 会議

出席者：久田健一郎，高橋 修，伊藤 孝，上栗伸一，小関純一，小森次郎，澤口 隆，清水政義，中林俊明，西浦慎悟，林 慶一，廣木義久，藤原 靖，松本 現，間處耕吉，南島正重，宮下 治，吉本直弘，米澤正弘，渡来めぐみ（計 20 名）

議 題：

1. 『みんなの地学』創刊号の発行部数について

『みんなの地学』創刊号は通常予算で会員向けに印刷することに加え，渡部景隆基金により多数増刷すること，またその増刷分は，会員が講師を担当する各種イベント等において学会の紹介・入会の勧め等で活用していくことが 2019 年度第 1 回常務委員会において決定されている．この方針で変更がないことを確認する．また，詳細は以下の通りとする．

- ・合計の印刷部数は 1000 部とする（国際文献見積により印刷代のみで約 50 万円/1000 部）．
- ・組版代・製版代は会費収入から負担し，残り印刷代は印刷部数で比例配分し会費と渡部基金でそれぞれ負担する．
- ・別刷りは作成せず，著者のみに実費で配布する（10 部単位）．費用は上記見積もり方に従う．

2. 若手学術賞について

2018 年第 1 回常務委員会（2018 年 7 月），2018 年度評議員会（2018 年 8 月），2019 年第 4 回常務委員会（2020 年 4 月）と継続審議をしてきた若手学術賞について再度吟味した．結果，次回審査分から本賞を設けることとした．本賞の審査対象者は，本会学会員であること，該当年の「地学教育」誌に掲載された原著論文および資料論文の筆頭著者であり，論文受理日において満 40 歳に達しておらず，過去に本賞を受けていないこと．また，受賞候補者数は原則として年 2 件までとするが，同点またはそれに準ずる場合はその限りではない．

3. 日本地学教育学会センター試験評価について

今年度実施したセンター試験評価について情報を共有した．本件は担当教員の負担は大きい，なるべく簡略化しつつ継続していくこととした．

4. 『地学教育』の英文表記について

『地学教育』の英文表記は，Education of Earth Science として統一的に表記していくことと確認した．

5. 『地学教育』と『みんなの地学』との間での原稿の移動や投稿先の変更について

これまでの『地学教育』に加え，『みんなの地学』が発行され 2 誌体制である．それに伴い二つの編集委員会が並列することとなったが，以下の編集方針で進めていくことが確認された．

- ・原稿の投稿は著者の自由意志によってなされるものであり，投稿先は著者の意向を尊重する．

- ・両編集委員会が、著者に対して投稿先の変更を提案したり、勧めたりすることは可能である。
- ・両編集委員会は、各々の雑誌の編集方針に従って、主体的に編集を行う。

6. 全国大会愛知大会について

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020年9月に予定されていた全国大会愛知大会を中止する。なお、評議員会、総会、および代替となるイベントについては検討し、次回、常務委員会で決定することとした。

7. 会勢について

入退会は以下の通りである。

入会者・学生会員 岡 雄介

2020年5月14日現在の会員数は545であり、以下内訳である。

正会員	429
正会員（学生）	12
正会員（シニア）	51
購読有料会員	25
購読無料会員	24
在外	1
在外学生	0
名誉	3

報 告：

1. 各種委員会報告

地学教育編集委員会より、以下の報告があった。

- ・『地学教育』72巻4号は校了し、2020年5月中に発行の予定。掲載予定は、原著論文2編、資料論文1編、地学教育ニュースNo.29である。
- ・現在の投稿・編集状況は以下の通りである。

新規投稿論文（2020年4月3日～2020年5月13日）6編（内訳：原著論文 1編、資料論文 1編）

編集中論文（2020年5月13日現在）22編（内訳：原著論文 13編、資料論文 9編）

2. 役員候補者の推薦について

「役員選挙について細則」に基づき、2020年4月25日付で、会長および評議員候補者の推薦受付が終了した旨、報告があった。

3. 2020年度地学教育学会広報委員会の構成について

次期、広報委員会として、以下の構成で進めていく旨、報告があった。

宮下 治（委員長）、吉富健一（副委員長）、小森次郎、竹下欣宏、藤平秀一郎、菅澤雄大

次回常務委員会も今回同様、web会議形式とする。実施予定日は6月18日（木）である。